

関節リウマチとは

関節に炎症が起きて腫れや強い痛みが続き、炎症が長引くと軟骨や骨が傷ついて関節が変形してしまう病気です。

手や足の関節に起こりやすく、左右の同じ場所に症状が出ることが多いのが特徴で、関節を動かしていなくても痛みが生じることがあります。また、発熱や疲れやすさ、食欲低下などの全身症状が出ることもあり、炎症が進むと肺や血管など関節以外の臓器に影響を及ぼすこともあります。

原因としては、体を守る免疫の仕組みに異常が生じ、自分自身の関節を誤って攻撃してしまうことで炎症が起こり、腫れや痛みが生じると考えられています。炎症が続くと、関節を包む「滑膜（かつまく）」が腫れ上がり、骨や軟骨が徐々に破壊されていきます。

女性に多くみられ（男女比約1：4）、60歳以降に発症する場合も少なくありません。

主な症状

関節の痛みや腫れ



関節の痛みや熱をもって腫れる。関節の痛みや腫れが左右対称に現れる。
多くの関節が同時に腫れる。

朝のこわばり



朝起きてすぐに手が開きにくい、体を動かしにくい。症状は30分程度で消える。

微熱・倦怠期・食欲不振



37℃台の微熱や、倦怠感、食欲不振が続く。

治療

関節リウマチは自己免疫の異常によって起こる病気で、早い段階で治療を始めることで関節の破壊・変形の進行を抑えることが期待できます。



治療の種類	主な目的	代表的な薬剤・方法	特徴・ポイント
病変修飾性抗リウマチ薬 (DMARDs)	免疫の異常を抑え、病気の進行を止める・遅らせる	メトトレキサート (MTX)、サラゾスルファピリジン など	関節破壊を防ぐ中心的な治療。効果が出るまで数週間～数カ月。定期検査が必要。
生物学的製剤 (bDMARDs) (MTX で不十分な場合に追加)	強い炎症を抑える	アダリムマブ、アバタセプト など	点滴または皮下注。効果が高い一方、感染症に注意。高コスト。
JAK阻害薬 (tsDMARDs) (飲み薬タイプの新しい治療)	免疫反応のスイッチを抑える	バリシチニブ、ウパタシチニブ など	経口薬で使いやすい。感染症や血栓など副作用に注意。
副腎皮質ステロイド	痛み・腫れを短期間に抑える	プレドニゾン	補助的に使用。長期使用で副作用（骨粗鬆症など）に注意。
NSAIDs (非ステロイド性抗炎症薬)	痛み・炎症を抑える	ロキソプロフェン、セレコキシブ など	症状を和らげるだけで、病気の進行を抑える効果はない。胃腸・腎臓に注意。

